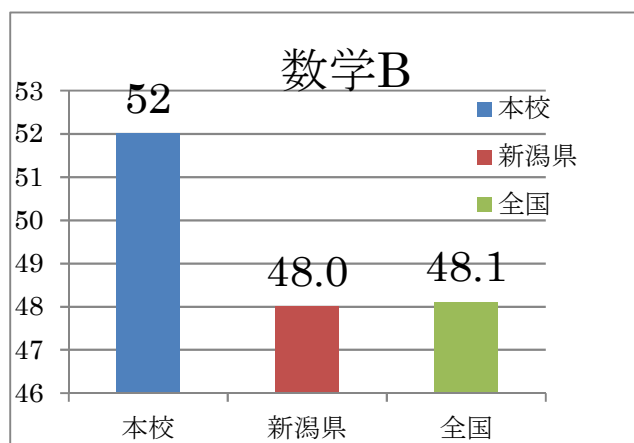
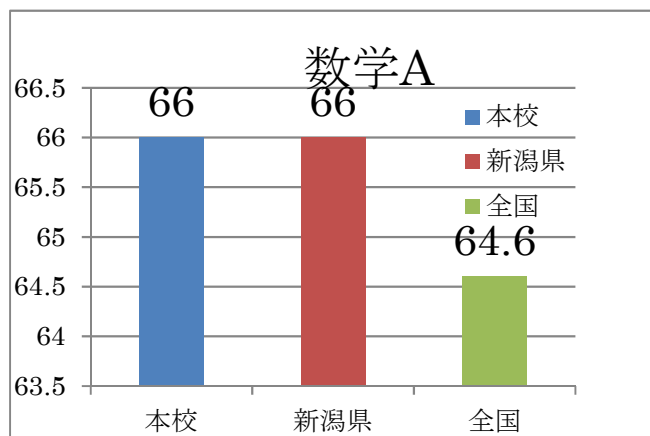
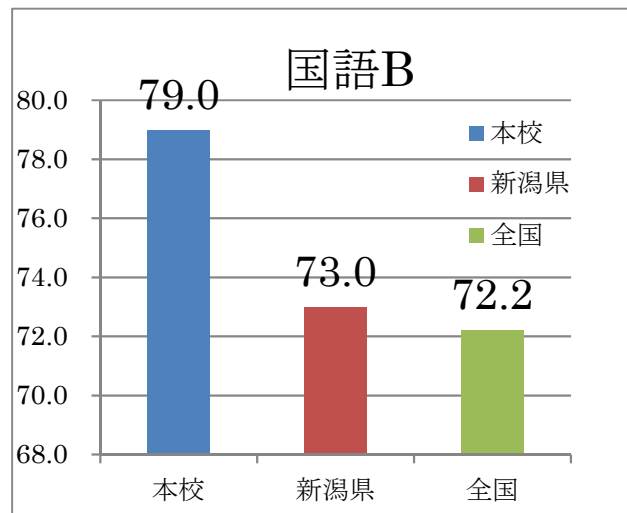
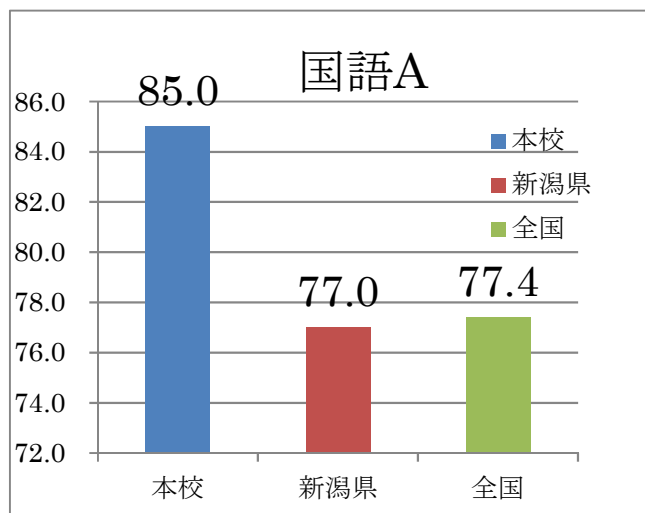


平成 29 年度全国学力・学習状況調査について

1 結果概要



2 指導改善のポイント

国語A、国語B、数学Bの3つの教科において県平均および全国平均を上回り、学習内容が概ね定着していることがうかがえる。しかし、数学Aが全国平均を上回っているものの、県平均と同ポイントであり、本校としては課題の残る結果となった。また、本結果と学習状況より以下の点が本校の課題として挙げられる。

国語：表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことができない生徒が多い。比喻表現への理解が不十分なためであると考えられる。また、相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことを苦手としている。

数学：答えを導く過程の中で、根拠を考え、説明する力に課題が見られる。また、図形の問題で、記述面においても解き方を漠然と理解しているだけで、きちんと表現できていない生徒が多い。生徒の学習の定着にばらつきがあるため、授業について今後一層の工夫が必要になる。

以上の課題を今後の授業等においてどのように改善し、来年度以降につなげていくのかを各教科部で検討した。検討した内容を、特に前期課程の授業において実践していく。

- [国語] ①語句の語源を確かめる、類義語・対義語の洗い出し、具体的な使用例を考えさせる活動等を行う。
 ②古典には様々な種類があることを指導し、小学校から親しんできた古典と結びつける。
 ③文学作品を読んで批評したり、詩歌を鑑賞して文章を書いたりした上で、それを互いに交流させる。
 ④本や教科書などから表現技法を用いた文例を探し、技法カードを作ることで知識を定着させる。
- [数学] ①既習事項の振り返りをきちんと行う。
 ②既習事項を基に、数量や図形の性質を考察し、記述できるようにする。
 ③1人では解決できない問題をアドバイスし合えるような雰囲気をつくる。
 ④成功体験を積み重ねて、学習へ取り組む意欲を向上させる。